

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道17号 <small>ほんじょうどうろ</small> 本庄道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局																													
起終点	自：埼玉県本庄市沼和田 至：群馬県高崎市新町			延長	7.0km																													
事業概要	<p>国道17号は東京都中央区を起点として、さいたま市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。本庄道路は、国道17号現道の交通混雑緩和を目的として本庄市街地の北部に計画された延長13.1kmのバイパスである。このうち延長7.0kmは、群馬・埼玉県境付近に位置する老朽橋(S9架橋)の架替による防災震災対策及び、国道17号現道の混雑緩和、安全性向上を図るため事業中である。</p>																																	
H15年度事業化	H20年度都市計画決定	H23年度用地着手	H25工事着手																															
全体事業費	約362億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約71%	供用済延長	-																													
計画交通量	26,800~35,100台/日																																	
費用対効果 分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">B/C</th> <th style="width: 5%;">(事業全体)</th> <th style="width: 5%;">(残事業)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1.6</td> <td style="text-align: center;">(1.8)</td> <td style="text-align: center;">2.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">(4.8)</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体)	(残事業)	1.6	(1.8)	2.6		(4.8)		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">総費用</th> <th style="width: 5%;">(残事業)/(事業全体)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">392/629億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費：329/560億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費：56/62億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>更新費：7.2/7.2億円</td> <td></td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体)	392/629億円		事業費：329/560億円		維持管理費：56/62億円		更新費：7.2/7.2億円		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">総便益</th> <th style="width: 5%;">(残事業)/(事業全体)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1,000/1,000億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>走行時間短縮便益：925/925億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>走行経費減少便益：63/63億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通事故減少便益：13/13億円</td> <td></td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/(事業全体)	1,000/1,000億円		走行時間短縮便益：925/925億円		走行経費減少便益：63/63億円		交通事故減少便益：13/13億円		基準年	令和4年
B/C	(事業全体)	(残事業)																																
1.6	(1.8)	2.6																																
	(4.8)																																	
総費用	(残事業)/(事業全体)																																	
392/629億円																																		
事業費：329/560億円																																		
維持管理費：56/62億円																																		
更新費：7.2/7.2億円																																		
総便益	(残事業)/(事業全体)																																	
1,000/1,000億円																																		
走行時間短縮便益：925/925億円																																		
走行経費減少便益：63/63億円																																		
交通事故減少便益：13/13億円																																		
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.3~1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.5~1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.4~1.7（事業期間 ±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=2.2~2.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.4~2.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.3~2.7（事業期間 ±20%）</p>																																	
事業の効果等	<p>①交通混雑の緩和、円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本庄道路（I期区間）に並行する国道17号（現道）には主要渋滞箇所である勅使河原（北）交差点、若泉二丁目交差点が位置する。 事故類型は追突事故が多く、全体の約70%を占める。 本庄道路の整備により、現道区間の交通が転換され、交通混雑の解消、交通事故の減少が見込まれる。 <p>②防災・震災における緊急輸送道路の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道17号は、東京と新潟を結び、埼玉県内を南北に縦断する主要幹線道路であり、また、緊急輸送道路に指定され、関越自動車道の代替路としての役割を果たす重要な路線。 本庄道路終点に災害時の輸送拠点となる陸上自衛隊新町駐屯地が立地し、当該路線の整備により、神流川橋（架設後約90年経過）が架け替えられ、災害時の物資輸送等のネットワーク強化が図られる。 <p>③地域の幹線ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 本庄道路は、首都圏と上越・信越方面を結ぶ大動脈である国道17号バイパスの一部である。 本庄道路の整備により、開通済みの深谷バイパス、熊谷バイパス、事業中の上尾道路と一体となって県北・県央地域の幹線ネットワークを形成。 																																	
関係する地方公共団体等の意見	<p>・埼玉県知事からの意見： 本庄道路は、首都圏と上信越方面を結ぶ国土の大動脈である国道17号のバイパスとして、地域の幹線道路ネットワークを形成する非常に重要な道路です。 国道17号現道では慢性的な交通渋滞が発生していることから、本庄道路の早期の全線開通が望まれており、本県においても、本庄道路に接続する県道の整備を鋭意進めております。 引き続き、コスト縮減に十分留意し、事業推進に努めていただきたい。</p> <p>・群馬県知事からの意見： 本事業は、国道17号の交通渋滞の緩和や道路交通の安全性向上等を図るうえで重要な事業であり、早期完成に向けて事業推進を図られたい。 また、計画区間西側（群馬県側）の現道区間は、上り線が片側1車線であり、渋滞が発生しているため、事業の延伸をお願いしたい。 なお、コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を推進されたい。</p>																																	

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成20年度に都市計画決定。
- ・平成26年度にユネスコ世界文化遺産に登録された田島弥平旧宅などが存在している。
- ・平成27年度に関越自動車道、上里SICが供用開始。
- ・令和4年度に本庄道路（Ⅱ期）が事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地取得率は約86%完了（令和4年3月末時点）。
- ・平成24年度から用地取得に着手、平成25年度から橋梁（神流川橋）工事、令和2年度本庄市沼和田地区の工事に着手。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・電線共同溝追加、埋蔵文化財発掘のため、事業期間を延伸。
- ・当初想定していた地質状況と異なることが確認されたため、今後、更なる地質調査を行い、液状化対策等の必要性を検討。
- ・早期完成を目指し、用地取得・工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

- ・神流川橋の架設にあたり、仮橋設置工法から河川切り廻し工法への見直しによるコスト縮減。

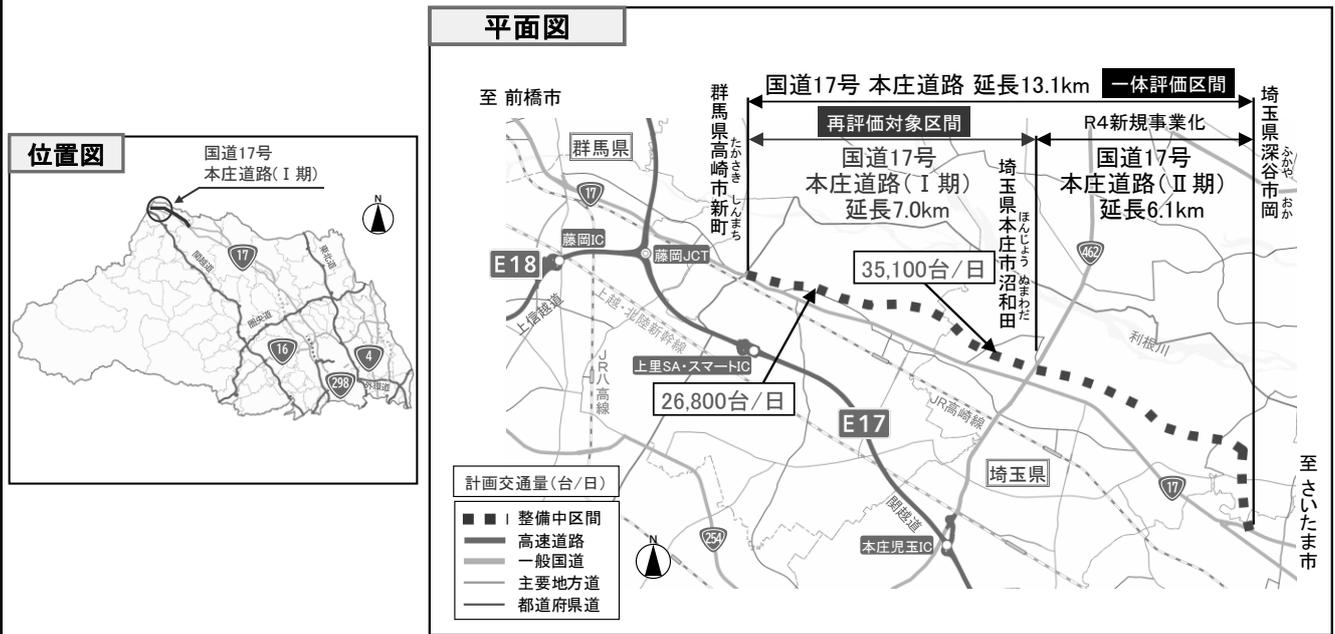
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

※ 費用対効果分析結果の（）は個別評価結果を示したもの